

Title	高大接続入試改革の現状と問題点
Author	飯吉, 弘子
Citation	大阪市立大学大学教育. 16 卷 1 号, p.35.
Issue Date	2018-10
ISSN	1349-2152
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学教育研究センター
Description	第 23 回大学教育研究セミナー報告(2018 年 7 月 13 日開催): 講師:大久保 敦
DOI	10.24544/ocu.20181115-004

Placed on: Osaka City University

高大接続入試改革の現状と問題点

日 時：2018年7月13日（金曜）11時35分～12時10分
場 所：全学共通教育棟2階会議室
講 師（兼企画担当）
：大久保 敦（大学教育研究センター・副所長・教授）
講演内容：「高大接続入試改革の現状と問題点」
主 催：大阪市立大学 大学教育研究センター

今年度第2回目となる、第23回大学教育研究セミナーを、7月に開催いたしました。

今回は、昨年度に引き続き、入試改革の動向のその後の状況と問題点について、センター専任研究員の久保敦副所長から、報告を行っていただきました。

2021年4月の大学入学者より、現在の大学入試センター試験が廃止されるとともに、新たな「大学入学共通テスト」が導入され、入試制度が大きく変わることに伴い、マスメディアによる入試改革に関する報道が盛んになされています。しかし、その報道内容は「記述式」の導入、「英語四技能評価」や「英語外部資格・検定試験」の導入に集中しており、問題の本質や全体像がつかみにくい状況となっている点や、実施に当たっての技術的な課題が克服されていないことなど、数々の問題点が入試関係者によって指摘されています。今回のセミナーでは、入試改革に向けた最近の動向と、今回の入試改革の問題点などを中心に、報告や話題提供を行っていただきました。

話題提供の後、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を大学入試に導入することの是非をはじめとする活発な質疑応答が行われました。

大学教育研究センター会議終了後に、センターの専任・兼任研究員および事務職員を対象として開催し、参加者は20名でした。

（飯吉弘子：セミナー運営担当）